

大学の井戸水で「番茶」

岐阜大生らが企業と連携、開発

道の駅などで試験販売



岐阜大の地下水を使用した「やさ茶」をPRする
森明日香さん(左)と近藤貴之さん＝岐阜市柳戸、同大

岐阜大(岐阜市柳戸)
の学生有志でつくるゲ

ループは、県内の企業
や金融機関と連携し、

道の駅などで試験販
売している。

同大は2014年6
月の地下水を使った
ペットボトルの番茶
「やさ茶」を開発した。
15日から学内の消費
者へ、産学連携協定を結
ぶ東濃信用金庫(多治

見市)に地下水の利活
用を相談し、加茂郡白
川町の茶葉を使い、地
下水で抽出したお茶の
販売の提案を受けた。
地下水の販売にも携
わった同大工学部神谷
浩二准教授(地下水工
学)の研究室に所属す
る、大学院工学研究科
2年の近藤貴之さんら
がグループを設立。茶
葉は、同町の宇津尾茶
生産組合が育て白川園
本舗が仕上げた、優し
く甘みのある白川番茶
を使用した。学生がお
茶の味からイメージし
た商品名やパッケージ
デザイン、価格設定な
どを考えた。

販売用も含め2万4
千本を用意。夏まで販
売し、市場調査などを
経て正式販売する。近
藤さんは「多くの意見
を取り入れ、家族で飲
めるお茶を目指した
い」と話し、応用生物
科学部3年の森明日香
さんは「茶摘みやお茶
の入れ方などのイベン
トも実施し、若い人に
も日本茶の魅力を知っ
てもらえ」と語った。
(湯浅裕作)